

■高井田山古墳の熨斗■

高井田山（たかいだやま）古墳は、横穴式石室をもつ直径 22m の円墳です。

古墳の規模としては大きくありませんが、銅鏡やガラス玉など、質・量ともに優れた副葬品が出土したことで知られます。

副葬品のなかでとくに重要で、かつ有名な資料が、古代のアイロンである熨斗（のし）です。

百濟（くだら）の王墓である武寧王陵（ぶねいおうりょう）から出土したものとそっくりです。

また柄の部分には繊維の痕跡が残り、熨斗が布などにくるまれていたことを推測させます。

二人がひとつの古墳に葬られているという点でも共通しており、高井田山古墳には百濟と関わりのある高位の人物が葬られたと考えられます。